

## (6) 参加生徒感想

### タイボラと私

機械科3年 篠崎 隆



僕は、1年生から3年生の3年間でタイボラに3回参加し、たくさんの事を学びました。言葉では言い表せない、大切な何かがタイボラにはたくさん詰まっていました。

1年の時は、何も分からない自分にとって2、3年生の先輩は、楽しく笑顔が絶えない素晴らしいメンバーでした。この年は、タイに行ってからいろいろなところで先輩たちに先を越されて、ただ見ているだけの自分でした。そのとき、4回目の参加のOBの門澤先輩は、「自分たちは修理しに来ているのでは無く、修理させてもらいに来ている」と言いました。きっとそこにいた皆に、その言葉が言っている事がわかったと思います。また、NGOの人達は、自ら仕事を休んでまで、われわれのサポートをしてくれる事が、すごいと思いました。得たものがたくさんあった1年目でした。

2年生では、先輩のサポートも少しずつ出来てき、なおかつ後輩の面倒も見ようになって忙しくなってきました。この時は全体のメンバーが少なかったのですが、2年生のメンバーが多かったのは心強かったです。始めの頃はまとまりが無く、自分もすごく心配でした。しかし、少しずつ練習していく中で、まとまりができてきて、タイに行くころにはすっかり一つのまとまりになっていました。

そして3年目になりました。しかし、メンバーは3年間で一番多かったためか、初めからまとまりがなく、計画性に欠けていたような気がしました。メンバーが全員集まることがめったになく、少人数での交流会の練習をしながら、少しずつ準備が進んで行きました。また、この活動をより多くの人々に知ってもらうために、中学校を訪問し、去年のVTRを見せたり、感想などを言ったり質問や話し合いをしてタイについて知ってもらいました。

今回のタイでは、12日スコータイ遺跡を見学しました。遺跡はとても大きく、所々修復している場所もありましたが「遺跡が大切にされているのだな」と思いました。13日、いよいよ修理活動が始まりました。ヘルスセンターに行って日本から持ってきた車椅子を5台寄贈しました。子供に車椅子を渡した時、すごく喜んでいた顔がとても印象に残っていました。そのときにタイボラに参加していてよかったと思った一瞬でした。たった一瞬の笑顔でしたが、そのときに自分に見せた笑顔は忘れません。

修理が始まると、走りそうにもない車椅子がたくさんありました。その中から修理に使えるパーツを取って来て、できる限り多くの車椅子を直そうと思いました。しかし、午前中に直せた車椅子は0台でした。その時、本当に全部直せるのか心配でした。午後の修理では何とか6台の車椅子を修理することができました。この日は、車椅子の修理するスピードや効率の悪さが浮き彫りになりました。

14日は、ワット・ドン・ミー小学校で交流会をしました。ソーラン節、アンガルーン、歌（島歌、乾杯、あのすばらしい愛をもう一度、また会える日まで）を披露しました。その後も一緒に写真を撮ったり、楽しいひと時をすごしました。とても楽しい思い出になりました。

その後、昨日修理活動したセンターに行って修理をしました。修理し終わって利用者に車椅子が渡ったときに自分たちに見せてくれた笑顔で、自分は、今までにたまっていた疲れが取れていくような感じがしました。

15日は、県庁舎に行って修理活動をしました。修理するスピードは初日より見違えるほどに速くな

っていました。部品を NGO の人に頼んでいる間に、他のメンバーの所に行って自分にできる事を手伝う余裕も出来ました。16日も昨日と同じ県庁舎で修理をしましたが、この頃になると、みんなに疲れがたまっているのが明らかにわかりました。しかし、弱音を誰一人として吐きません。皆が一つの目標に向かって走っているのだから。修理が終わって帰ろうとするとき、タイの人々が、いつまでも手を振ってくれていた時、この活動に参加して本当によかったと思いました。

17日の最終日、バンコク市内を見学している時、このメンバーで来るのが最後かと思うと、さびしい気持ちと、またこの場所にこのメンバーで来たいという気持ちが高まりました。最後のミーティングでは、涙で本音が言い出せなかったのが悔いに残りました。

栃工に入学してよかった事は、タイボラに参加してたくさんの人と知り合い、いろいろな体験をしたことです。他の高校では体験できない大切な物がいっぱい詰まっていた。たくさんの人が支えてくれている、その活動に参加させてもらえた事に感謝しています。この活動で、自分で得た物をこれから生かしていけたらいいと思います。そしてタイボラを支えている人すべてに「ありがとう」と言いたいです。

## タイボランティアに参加して

機械科2年 上 悟史



僕は、今回初めてタイボランティアに参加しました。準備が始まった最初の頃は、はっきり言ってあまりまじめに取り組んではいませんでした。しかし、先輩の一生懸命取り組む姿を見て、自分もしっかりやろうという気持ちになっていきました。

タイでの修理活動ではとても苦戦しました。日本で修理していた車椅子と違い、とてもボロボロなのです。ここまでなっても、使われているとは思っていなかったの、本当に驚きました。でも、皆で力を合わせて一生懸命修理しました。残念ながら完璧にはいきませんでした。利用者の方がとても喜んで下さったときは、僕も心から嬉しくなりました。

小学校の交流会では、タイの子どもたちが踊りなどで歓迎してくれました。小さな子どもたちがとてもかわいくて、始めはとても嬉しい気持ちで見えていましたが、良く見ると靴を履いていない子どもがとても多い事に気付きました。服もあまりいいものではありません。改めて日本とタイの違いを実感して悲しくなりました。そして、ボランティアというものがどれだけ必要なのかという事を理解できたような気がしました。

僕は、来年もこのタイボランティアに参加して、先輩達が続けてきた事を引継ぎ、出来なかった事にも挑戦したいと思っています。

## 異国の地にて

電気電子科1年 池田 雅幸

私は今回、タイボランティアに参加するにあたって二つの目標を立てました。

一つ目は、「自分の役割に責任を持ち、人に頼らず自分の力で頑張る」です。私は今回、工具係という役割を頂きました。これを自分の力で成し遂げることが目標です。しかし、活動前から団長の酒井さんに頼りがちになってしま



った！！反省・・・。

二つ目は「単独行動は慎み、チームワークを大切にする」です。私はよく人の話を聞けないし、理解不能な行動をとるので、いつも皆さんにご迷惑をおかけしてしまいます。今回の活動を機会に、もう少し自覚を持つと思います。

この目標を胸に灯し、タイでの活動が始まりました。

タイでの修理活動は、苦戦を強いられました。初日、錆がこれでもかという程こびりついた強烈な車椅子が何台もありました。もう愕然です。おまけに三輪駆動の手こぎの車椅子が！！車椅子はどれもこれも日本製のものとは構造が異なり、部品不足に悩まされました。手こぎの車椅子にも四苦八苦。先輩たちの助けもあり、難とかそれらを直すことに成功しました。やっぱり先輩は頼りになります。

しかし私は肝心なことを達成させてない。・・・初日からこんなに先輩たちに頼ってもいいのか！また自分は口先だけで終わってしまうのか！！私はいつも口先だけで、いざそれを行おうとしないことが多々あります。・・・このままでいいのか！また逃げるのか！！・・・初日の夜、弱い自分と向き合ってみました。「そうだ、頑張らなくては」・・・そうだ、おまえは何しにタイまで来たんだ！？成し遂げるために来たんだらう！？さあ、明日からだ！！自分の力を見せてやれ！！・・・そうだ、明日こそ、

そして翌日から、私は全力を尽くしました。昨日を生かし、明日を進め、そして、成し遂げる！！自然と作業に力が入ります。

活動場所が変わり、私は目の前にその修理する車椅子の所持者と共に活動することになりました。これはかなり緊張しました。とても心配そうに私が修理する姿を見つめていました。そして、完成した車椅子をおそろおそろ本人に見せると、嬉しそうに一言「ディー」と。私は初めて異国の人と心が通じあいました。

活動後日、私は、何となく一歩前進出来た気がします。・・・来年もいきたいなあ。

## 助け合い ～ボランティア～

機械科3年 岡本 大輝



僕は今回で2回目のタイボランティア参加となりました。12月11日から18日の8日間、ピッサヌロークという場所で20人の仲間達と車椅子の修理活動、及び交流会をしてきました。車椅子の修理活動は昨年同様、炎天下の中、たくさんの壊れた車椅子が僕達を待っていました。初日の修理活動を始めるときにすごく嫌になり、逃げ出したい気持ちでいっぱいになりました。しかし、まわりで気合いを入れている仲間達をみて「僕は決して一人ではないんだ。」という気持ちで胸がいっぱいになり、これから修理活動をするに関らず楽しい気分で修理活動に望むことができました。そして、次の日からの修理活動は、決して楽な修理活動はなかったけれども、無事終わることができました。

また、交流会ではソーラン節を披露しました。僕達が踊っている間、現地の人や子達の真剣な眼差しを感じました。約3ヶ月ちかく、毎日放課後残って一生懸命練習してきたので、披露した後とても嬉しかったです。

帰りの飛行機の中で、僕はタイボランティアで学んだ「助け合い」ということで胸がいっぱいでした。もし機会があればいろいろな国に行っているいろいろな人と話をして、助け合い～タイボランティア～をしてみたいです。今年で僕は卒業しますが、後輩の皆さんに是非これからも僕達の代以上のことをしてもらいたいです。いい思い出をありがとうございました。

## 初めてのタイボランティア

機械科2年 田中 達也

僕は今回、初めてタイボランティア活動に参加しました。

タイに行く前は、いろいろ不安がありました。タイに着いたときにはそんな事は忘れていました。タイに着いてからは見るものすべてが新鮮でした。特に驚いたことはバイクが多く走っていて、それも二人乗りは当たり前のように三人乗りで走ってる姿や道をゾウが歩いている姿など、日本では考えられない光景がいっぱい見られました。



修理活動では、福祉機器制作部で学んだことを生かし修理活動に取り組みました。やはり、タイの車椅子は日本のものと違い、サビと泥で汚れがひどく磨いてもなかなか落ちず苦戦しました。中には、溶接をしないと修理できないのものや、座るためのシートを新たに作らなければいけないものなどがありました。先生やみんなの工夫で、難しい箇所の修理もなんとかできました。先輩からも修理するだろうと聞いていた、手こぎ三輪車を初めて修理しました。僕たちが修理した手こぎ三輪車の状態は、壊れてる箇所も少なく、汚れを落とす程度のものでしたが、使う人のことを考え汚れをとことん落とし綺麗にして渡そうと思い、修理をしていました。修理した手こぎ三輪車を渡して、持ち主のおばあちゃんが手こぎ三輪車の試運転をしていて、あまりいい表情していない感じが最初はあったが、おばあちゃんと別れる時、おばあちゃんが涙を流していて、やっぱり嬉しかったんだと思いました。そのとき僕は、人の役にたったのだと思えずごく嬉しかったです。来年も来て修理活動をさせてもらいたいと思いました。

交流会を行った小学校では、僕たちが着いたときにはすでに子供達が待っていました。そして、車から降りてきた僕たちを「コンニチハ」と出迎えてくれました。交流会が始まり、あいさつのあと、まず小学校の生徒からの踊りの披露がありました。踊りは三回あり学年別で違う踊りがあって楽しかった。その後、僕たちが、ソーラン節、アンガルーン、歌の発表をした。ソーラン節は、うまくできました。アンガルーンの演奏中に僕が間違ってしまったが演奏の方はなんとか終わることができました。自分のミスに悔いが残った……。歌は、五曲歌いアンコールも一曲やってすごく盛り上がりました。そして僕らの発表のあと、小学校の子らに栃工の手ぬぐいを配りましたが、みんな群がるように取っていきあっとゆう間に無くなってしまいました。その後、子供達と一緒に写真を撮ったり、肩車をしてったりし楽しい時間を過ごせました。あっとゆう間に、交流会も終り楽しい時間が過ぎていきました。交流会を通じて、国や言葉が違ってそれぞれの文化を知り、一生懸命取り組むことによって心が通じ合える事に感動しました。

今回、タイボランティア活動に参加して、沢山の貴重な経験することができました。この八日間の間楽しいこと、辛かったこと、感動したこと様々な思いが自分をちょっと成長させてくれたと思います。また、次回も参加して、先輩たちが悔やんでいたことを1つでも多くできるようにしたいです。

最後に、そんな貴重な体験ができたのも、忙しいにもかかわらず僕たちの世話をしてくださった NGO の皆さん、僕たちをやさしく見守ってくださった先生方。そして両親の支えがあったからこそできたことです。本当にありがとうございました。

## 異国の地で学んだこと

電気電子科1年 山田 瑞希

今回のタイボラは初参加だったので、メンバーの足を引っ張ることが多々ありました。しかし、メンバ

一の皆さんは、とても優しくていい方々でした。面倒見がよく、悩み相談にものってくれました。



タイボラ最初の訪問地、ピサヌロークでの修理活動一日目は、なかなか作業がはかどりませんでした。その日の反省の中では「もっと声を出していこう」とみんながいていました。二日目では午後からでしたが、昨日の反省をばねに頑張りました。そのかいがあって多くの車いすを、直すことができました。三日目は場所を移しての作業でした。そこでは、手漕ぎ三輪車というものを、初めて見ました。車椅子と比べると、構造は単純にできていましたが、塗料が剥げて錆びだらけでした。中には手で漕ぐためのシャフトが外れているものもありました。直すのが大変で、時間ばかりかかってしまいました。なれない作業と暑さで、僕はダウン寸前になりました。ホテルに帰ると、暑さにバテてしまった僕に、NGOの方々はほんとうにやさしくしてくれ、お世話になりました。

作業を終え、移動したバンコクでは、王宮や奈良の大仏が寝転んでいるような寺(ワット・ポー)その後、船で移動し、さらに大きな寺院(ワット・アルン)などを見学しました。親切なおばさんには、鳩のエサをもらい無料かなと思いつつお金を取られそうになったり、海外旅行1年生の私には、いろいろと大変な一日でした。

しかし、今思うと、とても懐かしい思い出です。とてもとてもタイが恋しくなりました。また来年も行きたいと思っています。

## タイボラに参加して

機械科3年 伏木 孝紀

僕は、2年間タイボラに参加しました。今年も最高に楽しかったし、いろいろな経験もできたし、大変だった事もありました。去年は初参加ということで、分からない事がたくさんあり、先輩たちにいろいろと迷惑をかけてしまいました。だから、今年は僕たちが、しっかりと3年生として自覚と責任のある行動をとりたいと思いました。今回は16人と人数が多く、さまざまな不安や悩みがありました。

修理活動では、サビが酷かったりボルトのサイズが合わず悩まされたりと問題が多く困難を極めました。日本での研修とは違いすぎる所があり、考えさせられることがありました。

例えば、タイヤのサイズが合わなかったり、部品が日本の物に比べ大きく、持ってきたものが使えないなどです。修理中に不安そうな目をしていた利用者を見て、「自分は、直してあげているのではなく直させて頂いている」

という感謝の気持ちを持たなければならないと学びました。なんとか修理を終えて利用者に「コ-プクンマ-ク」(ありがとうございました)と挨拶をしたその時に利用者が見せてくれた笑顔が忘れられません。

交流会では、タイの小学校を訪問しました。初めに生徒によるとてもすてきなダンスを見させてもらいました。僕は、ソーラン節と歌を披露して御返ししました。多少間違えてしまったけど喜んでもらったのでよかったです。その後、日本から持ってきた風船や手ぬぐいなどを渡そうとしたら、子供達が突然集まって来て、取り合いのような感じになってしまいました。もらえなかった子がいたので、もう少し持ってこられたらよかったのにと思いました。でもとても喜んでくれたので、こっちも嬉しくなりま



した。交流会が終わって車に乗り込んだとき、来ていた人全員で見送りしてくれたのが感動的でした。

最終日のミ - ティングでは一人一人のタイボラへの気持ちを聞き、とても共感し、またとても熱くなりました。

正直、またタイに行きたいですが、今年で僕は卒業なので1, 2年生のみんなにはこの素晴らしい伝統を受け継いでいってほしいです。

## タイで出会った笑顔達

情報技術科2年 堀 航平



今年も待ちに待ったこの季節がやってきた。寒いこの12月に行く暖かな国「タイ」。去年とは一味違った思いを胸に足を踏み入れた。二年生。先輩もいて、後輩もいる。微妙な立場といえばそうかもしれない。しかしここで自分の役割を見つければ大きなものとなるだろう。気体と不安を感じながら出発した。タイボランティアの最初の大きな壁、車椅子。日本での講習とは比べ物にならない酷い状態。どのように修理すればいいのか分からずストレスもたまる一方である。でも

そこでビックリしたのは笑顔を絶やさないメンバーたちの姿だった。そんな姿を見て、自分も負けていけないなと感じる。妙にライバル心が湧いてきて、なんだかうれしい。タイの車椅子にも慣れてくると笑顔の数も増えてきた。修理後の利用者の方々との記念写真。うれしそうな顔の利用者の方。この笑顔が見たいからタイに来ている自分。やっぱりこの活動は素敵だ。言葉が通じない壁もある。でも感情はどここの国でも一緒だった。感謝してくれている表情をみるとこっちも笑顔がこぼれる。車椅子の修理やらせていただいて本当に感謝の気持ちでいっぱいだ。小学校で行った交流会小学生たちと仲良くダンスを踊ったり歌を歌ったり。皆たくさん笑いながら交流した。皆、僕たちの歌や踊りを楽しんで見てくれていた。「いいなあ！タイボラ」とますます思える瞬間だった。活動を通してよかった点も悪かった点もたくさんあった。それらを生かせば来年はもっといい活動ができると思う。

今年のタイボランティア。七日間だけでできた大切な仲間たち。今年は何回このメンバーと笑っただろう。何回タイの人たちに笑ってもらっただろう。どれくらい自分でよかったと思える活動をして心から笑えただろう。数え切れない笑顔を出したし、見ることができた。タイボランティアには感謝の気持ちでいっぱいだ。

来年は3年生。最後のタイボランティア、いくつの笑顔を見ることができよう。どれくらい笑うことができるだろう。今からが楽しみである。絶対に後悔はしたくない。本当に充実したと言える活動をしてよう！そう、今年の活動のように・・・。

## タイボラに参加して感じたこと

機械科1年 篠崎 淑貴

まず初めに、僕はタイボラに参加して本当によかったと思っています。僕が栃木工業に入学したかった理由の1つが、タイボラに行きたいということでした。入学する前は正直、もっと楽なものかと思っていました。しかし、実際はそんなことはありませんでした。放課後の修理活動なんかはとても大変でした。

初めてタイボラメンバーで集まった時は、知っている人が



1人もいなくて、「知らない人ばかりで、これから大丈夫かな」と不安で胸がいっぱいでした。それに、僕は交流活動の時にギターを弾くことになりました。自分からやると言ったのだけれど、これも初めのうちは不安しかありませんでした。放課後の活動が始まって、その2つの不安は全くなくなりました。練習が始まると、話した事がなかった先輩たちともだんだんコミュニケーションがとれてきて、すぐに仲良くなることができました。どの先輩も楽しくて優しい人ばかりだったので、放課後の活動も楽しくやることができました。ギターのほうも3人の先輩が教えてくれたりしたので、すぐに覚えることができました。

タイに着いてからは普通の修理活動も、暑さですごく大変な気がしました。しかし、どんなに疲れていても車椅子の修理が終わった後は、達成感と「これは自分達で直したのだ」という感動で、「明日もがんばろう」という気になりました。利用者の方に渡して、利用者の方が笑ってくれるとすごくうれしくなり、自分達も自然と笑顔になりました。また、言葉の通じない現地の方も、修理の手伝いをしてくれました。言葉が通じなくても、ジェスチャーなどを使って、やり方が分からなくて困っている僕達を助けてくれました。そのときに「言葉が通じなくても、心は通じるんだなあ」と思いました。

小学校に交流会に行きました。その時はソーラン節や歌をやりました。小学校の子供達は初めのうちは騒いでいたけど、だんだん静かになって僕達の歌や踊りを真剣に見てくれました。僕は人前でギターを弾いた事はありませんでした。理由は恥ずかしかったからです。しかしタイではそんな感情はありませんでした。聞いてくれる人が静かに聞いてくれると、すごくうれしい気持ちになりました。その時にタイの踊りも見ることができました。小学校の低学年から高学年の生徒が踊っているのは、見ていてぜんぜん飽きることがありませんでした。小さな子供達は、踊りを覚えるためにたくさん練習したのだと思います。そんなことを考えながら踊りを見ていました。交流会は心から楽しかったと思える活動でした。

初めて参加したタイボラで、僕はいろいろな感動と思い出を作ることができました。僕はこのタイボラに参加して感じた感動や思い出を、ずっと忘れないと思います。来年、再来年もこの活動に参加しようと思っているので、今年以上のボランティアをやろうと思っています。そして、大人になってもこの気持ちを忘れないで、いろいろなボランティアをやっていきたいです。

## タイボラ家族

情報技術科3年 成田 悠



僕は、二年間タイボラ活動に参加して前回より楽しく、考えさせられたのは今回でした。

去年は頼りになる先輩達の後ろを追いかけて、付いてまわるだけだった自分が、今回は引っぱる立場になり、しかも初参加者が多く16人という大人数だったので、正直、不安や迷いがありました。そんな思いのまま、時間だけが過ぎ僕たちは、タイへと旅だったのです。

タイに着き、ホテルでNGOの方々との再会したとき、喜びと不安が混ざったような心境でした。いよいよ修理活動開始。車椅子の中には去年修理した事のある手こぎ三輪車があったり、サビが酷く部品が不足しているのもあり、状態はとてひどいものでした。

僕が修理中にふと目にしたのが、テントの柱に寄り掛かっている両手と片足が無い人でした。その人は修理中だった自転車の持ち主だったのです。その人は心配そうな眼差しで見ていたので僕は椅子を持って行き、その人に座ってもらい簡単なタイ語でコミュニケーションを取り、その人は嬉しそうに笑っ

てくれました。この日の反省会で NGO の方に言われた事が「利用者ともっと親密な関係に」この言葉には深々と納得させられました。僕たちは大切な事を見落としていました。

次の日、なんとあの自転車の持ち主が、修理活動を手伝いに来てくれました。その人は強力な助っ人だった。ほんのわずかな手でブラシを取って、サビを落としてくれたのを見て、僕たちは感謝の気持ちでいっぱいでした。

修理活動残りの 3 日間、一人一人が積極的に利用者と会話を交わしたり、共に修理して家族のような絆で結ばれました。無事修理活動を終えた 16 人の顔はとてもさわやかでした。

最終日のミーティングで一人一人の思いを聞き、胸が熱くなりました。みんなも熱くなったのじゃないかな。先生方始め、NGO 方々、両親、友人、ありがとうございました。

「みんなに出会えて、一緒にやれたことわすれない。ありがとう。自信と思いやりを持って新たな仲間と歩んでほしい。」

## 第 15 回タイボランティアに参加して

情報技術科 2 年 大橋 亮介



今回、初参加でしたが「自分のできごとをしていたか？」と聞かれると、「あまりしていなかった」というような答えが自分の中に浮かんでいます。

そもそも、なぜ今回参加しようと思ったかという、前回、自分のクラスの堀君が参加していて、とても楽しそうに見えたからです。楽しそうといっても、真剣そのもので、見ていてとてもカッコイイと思えたからです。そこで、自分のことを考えると「自分はあそこまで真剣になれるのだ

ろうか？」そのような疑問が浮かんできました。なので、今回参加することにしました。

参加してみたの感想ですが、とても言い表せないような感動と達成感が経験できました。日本から離れて、日本語が余り通じない所へのボランティア。日本での研修とは違う車椅子の状況。手こぎ三輪車との格闘。どれをとっても、ビデオや発表などでは、体験することのできないものでした。仲間との連携を大事にして、何かを成し遂げようとする、努力を今回学びました。

日本の研修と違う点は

- 1 錆が落ちにくい。
- 2 日本では溶接する必要がないのだが、現地では溶接する必要がある。
- 3 鉄が腐っていたり、溶接できないものだったり状態がすごく悪い。
- 3 手こぎ三輪車の構造があまりわからなかったり、手でこぐ部分が折れていたり、とても悪い状態だった。

以上の点が今回行ってわかった点です。その中で自分はどう役に立ったのだろうか、今後考えていこうと思います。来年、機会があって行けるのであれば、また応募しようと思います。

## タイでの貴重な体験

機械科 2 年 大塚 紀宏

今回、僕は第 15 回タイボランティア活動に初めて参加して 7 泊 8 日で普段の生活ではなかなか体験できないことが色々体験できてとても勉強になりました。その中でも、車椅子、手こぎ三輪車を全員一丸となり修理したということや、小学校や福祉施設を訪問したときに行った交流会がとても印象的でした。

た。

車椅子、手こぎ三輪車の修理では、壊れている部分を修理する為の材料や部品が日本から持っていったものが合わなくグラインダ - やヤスリなどを使い加工を行い、それでも合わない場合や部品がない場合は活動場所から離れた現地のホ - ムセンタ - で調達したりしながら作業を進めていきました。その他にも車椅子のタイヤがワンタッチ式で取り外しが可能という部分が破損している車椅子があり、自分達で考えてみたが直す方法が思いつかず小倉先生にアドバイスを受けたということもありました。現地の車椅子は、錆が酷いものや部品が合わないもの、買いに行かないといかないとならないということもあって、一台を修理することは日本で修理したときよりもかなり時間がかかり大変でした。みんな、一台でも多く修理する為、本体のフレ - ムの錆を落とす人、タイヤを担当する人など分担をしたり、お互いに手があいているときは手伝ったりしながら作業を円滑に進めていきました。修理が終わりその車椅子、手こぎ三輪車を取りに来て帰るときの笑顔からは有り難うという気持ちが伝わってきました。



小学校や福祉施設での交流会は、文房具贈呈やソ - ラン節やアンガルーンの演奏そして日本の歌を歌いました。その小学校迄、移動に約1時間かかりました。最初はどんな子供達が居てどのように僕達を出迎えてもらえるかと思いましたが実際にいくと全く知らない日本人の僕達を笑顔で温かく迎えてもらいとても嬉しかったです。アンガルーンの演奏を間違ってしまったときは拍手と優しい笑顔で頑張れと場の雰囲気をもりあげてくれました。お互いの国の文化が理解できました。交流会が終わった後は、人気者になりサインを求められました。

2日目と7日目は、タイの遺跡、寺院を見学しました。スコ - タイ遺跡はとても広大な土地に沢山の遺跡がありました。ピサヌル - ク、バンコクの寺院や大仏は金色で凄かったです。最後に、僕達がタイで多くのことを学び体験できたことは現地のNGOスタッフの方々や日本の多くのスタッフ方々の協力により実現することができました。そして、その活動を通じてとても貴重な体験ができたことを感謝します。本当に色々有り難うございました。これからも宜しくお願い致します。

## タイボラに参加して！！

機械科3年 若林 憂樹



僕は、2年間タイボラに参加して、今年も最高に楽しかったし、いろいろな経験もできたし、大変だったりもしました。去年は初参加ということで分からない事がたくさんあり、その度に先輩たちにいろいろと助けてもらいました。だから今年は僕たちがしっかりと初参加者を引っぱってあげたいなと思いましたが、今回は16人と人数が多くさまざまな不安や悩みがありました。例えば、去年は手こぎ三輪車に、嫌というほど悩まされたので、修理活動はうまくできるだろうか

とか、腹痛にはならないだろうか、体調管理はしっかりできるだろうか、など考えていました。でも、みんなと一緒にいるうちに、そんな不安はいつのまにか僕の中から消えていました。修理活動はみんな協力して効率よくたくさんの車椅子や手こぎ三輪車を直すことができました。ですが、僕は2日目に腹痛になってしまい体調をくずしてしまいました。腹痛の薬を飲んでもなかなか治らなくて3日くらい

ツライ思いをしました。

しかし、今回のタイボラは素敵な仲間にもめぐり合えて本当に最高でした！  
タイボラバンザイ！！

## タイのおもいで

機械科3年 小関 晃寿

僕は、今年タイボランティアに初めて参加しました。タイ独特の気候や文化にとまどいましたが、仲間達と助け合いながらとても有意義な活動を行うことができました。

修理活動では車椅子の状態の悪さに驚きました。さびで茶色になったフレーム、すりへって使えなくなったタイヤ、隙間の大きいベアリング、ボロボロになったシートなどとても酷い状態でした。僕は福祉機器制作部に所属していて修理には自信がりましたが、それを見て、いままでの経験があまりやくに立たないことを知りました。そして、メンバーの一生懸命な修理活動を見ているうちに、ここで必要なものは、技術よりもやる気だということを知りました。また、日本では見られない手こぎ三輪車を修理する機会もあり、とてもいい経験になりました。



交流会では、歌やソーラン節を一生懸命がんばりました。放課後、遅くまで残って練習した成果を出すことができ、現地の人たちにとってもよろこんでいただけました。小学校では、生徒の方達がすてきなダンスを見せてくれてとても良い思い出になりました。

そのほかにも、タイの町並みや料理など、とても興味深いものがたくさんありました。特に、二日目に行った世界遺産のスコータイ遺跡のスケールの大きさにはとても驚きました。

三年生で、最初で最後のタイボランティアに参加でき、とても良い思い出を残すことが出来ました。このすばらしい活動に参加できたことに誇りに思います。この伝統を後輩たちに受け継いでいってくれることを願っています。

## 出逢いに 乾杯。そして... またあえる日まで...

情報技術科2年 村川 大貴

私は今回、初めてタイボランティア活動に参加しました。

日本語の通じない異国の地でうまくやれるか、出発のその日まで不安と緊張で一杯でした。

しかし、そんな気持ちもいつの間にかに.....

12/11 15:45 (現地時間) バンコク国際空港に到着。そこでは、NGOの方々が私たちを迎えてくれました。

12/11 20:00 (現地時間) タイ王国上空、機内の窓より下を見下ろすと滑走路の誘導灯が私たちを引き寄せるように見えてきました。日本を出発してから約十七時間、今回の活動拠点であるピッサヌロークに到着しました。空港からは車での移動、その車中驚いたことがありました。まずは車の速度80km/hは当たり前、日本でやったら警察に捕まる速度。NGOの人に聞いてみると、場所によって違うが、一般道は80km/h、高速道路は200km/hだとか！？開いた口がふさがらない思いでした。

そんなこんなで始まった、第十五回タイボランティア活動、今回の修理活動は計四日間、現地のヘルスセンターとの市民ホールを会場に行いました。

修理一日目、修理会場へ向かう車の中「一台でも多く修理できるように頑張るぞ！」と心に誓いました。そして、ヘルスセンターに到着。そこには多くの利用者の方が出迎えてくれました。開会式を行い、

早速修理開始！

運ばれてきた車椅子に目をやると、その状態はひどくフレームが錆つき、折れているものやシートが破れているものなど、人間なら集中治療室に入れられてしまうほどの“重傷患車”が多くありました。

メスの代わりにドライバー、ガーゼの代わりにウエスを持ち、骨折はギブスの代わりに溶接機を使って固定、注射の代わりに油をさす。まるでここは病院！「一台でも多くの車椅子の命を救いたい、オーナーさんの笑顔を見たい」と思う、車椅子のお医者さんがあちこちで治療中。難しい治療に頭を抱える 医師、そんな時に手助けしてくださる大先生、先輩医師。自分の力不足に悔しさを感じ、もっと頑張らなくてはと思いました。この日、直せた車椅子は六台。



修理二日目、この日は午前中、現地の小学校を訪れ交流会をしました。会場では小学校の生徒さんたちが私たちを迎えてくれ、歓迎の踊りを披露してくれました。そして、私たちは、ソーラン節を踊り、タイの楽器であるアンガルーンで日本の曲を演奏し、日本の歌を歌いました。その中で幸せなら手をたたこう を日本語とタイ語で歌いました。この時、現地の人たちと心が通ったなと思いました。最後の歌を歌い終わった後、生徒さん達がサインを求めにきてくれました。生徒さん達の笑顔が見られてとてもよかったです。初めての経験で心に残る出来事となりました。

午後は初日と同じ会場で、車椅子の修理の続きをしました。夕方まで修理をし、二日間で十七台の車椅子を修理することができました。

修理、三・四日目はシティーホールで活動しました。この日もトラックやバイクで重傷の車椅子が運ばれてきました。全員で手分けをして修理をし、完成した車椅子をオーナーに手渡した時、泣いて喜んでくれたときはとても嬉しかったです。この四日間、参加者それぞれが頑張った結果、三十五台以上の車椅子を修理することができました。

私は今回、第十五回タイボランティア活動に参加することができとても良かったと思っています。タイでたくさんの人に出会い、文章には書きあらわせないほどの多くのことを学ぶことができました。タイでの出会いに感謝しています。また来年も参加できればと思います。

出逢えたことを忘れはしない...またあえる日まで...（交流会でみんなで歌いました。）

最後に私たちがタイで有意義な時間を送ることができたのも現地のNGOの方々やご支援くださった多くの方々のおかげです。本当にありがとうございました。

## 何故、タイに行くの？



機械科3年 酒井 誠弥

今回のタイボランティア活動は、とてもいい経験をしました。経験という言葉では表せないくらい大きなものです。

私はタイに出発前、「タイボランティアに反対！」という意見を聞くことができました。それは、「日本国内や自分の地元にいる人は、たくさんいるじゃないか。いつも何もしていないやつが海外に行ってボランティアなんかできるの？」というものでした。そのとき正直、言い返すことはできませんでした。

タイのピサヌロークが今回の活動場所です。ここで4日間作業をさせていただきました。二日目には小学校で交流会をしました。練習してきたことを全部出し切った、今までで一番心が入った交流会でした。小学生達と遊ぶ時間がありそこで、みんな楽しそうに笑っていたのが印象的でした。午後には修理活動をしました。その日担当した車椅子は、利用者の方が持ってきていた今現在使っているものでした。しかし状態は、前輪はほとんど使い物にならず後輪もかなり磨り減っていました。ボディーの一部も折れていて、背もたれはビリビリに破けていました。後輪のタイヤはスペアと交換することですぐに解決し、シートも今回一緒に参加してくれていた家庭科の関口先生の力を得て修理することができました。ボディーの折れていた部分と一緒に修理していたスマイル(堀)と先生が直してくれました。一番の問題は前輪でした。他の車椅子のパーツを使うなど色々試しました。その前輪がうまく修理できず、違う車椅子を持っていってもらおうという話がでるほどでした。でも、ここまで使い込んでいるものを見るとそんなに簡単な問題ではないことはわかります。どれだけ大切に乘ってきたか、どれだけ思い出が詰まっているかを考えるとあきらめられるはずはありませんでした。しかも自分ひとりで修理したのでなく手伝ってくれた人がいたからこそここまでできたので三年間で学んだ技術をフルに活用しました。そのおかげで無事に手渡せるものにできました。乗ってもらった瞬間なんともいえないうれしさがこみ上げてきました。うれしさというのは、うまく動いていいねと言ってくれたこと、そして最高なのが笑顔を見せてくれたことできっとこれ以上うれしいことはありません。自分も負けられないぐらいの笑顔だったと思います。最後に大きくあたたかい手で握手をしてくれました。

これからの人生でこれほど感謝され自分も感謝することは少ないと思います。もっとたくさんこれからつくれるようにしたいです。楽しいこと、うれしいことたくさんありました。つらいこともありました。でも確実に今回のタイボラに参加した16人は成長しました。

今なら「なぜ海外に行くのか」というと、いい刺激を受けて確実に変わるきっかけになるから、そして今回のメンバーは、みんな誰かのために力を発揮できるやつばかりだよ」といえることができます。